

# 育てる漁業



## 熊石事業所アワビ種苗の出荷

当公社熊石事業所で5月28日からアワビ種苗の出荷が始まりました。

写真は6月3日、上ノ国へ30mm種苗7万個を出荷した時の作業風景です。パートを含め9人の職員で朝8時半から作業を開始し、1時間ほどでトラックへの荷積みが完了しました。

現在出荷しているのは、昨年春生まれの種苗で、7月末までに109万4,500個を供給する予定です。

また、秋には今春生まれの種苗37万8,000個の出荷を予定しています。

## CONTENTS 目次

漁業士発アクアカルチャーロード .....	2
<b>長万部漁協指導漁業士 小形新一さん</b>	
平成16年度通常総会 .....	3 ~ 7
<b>事業実施計画</b>	
アクア母ちゃん 寿都町漁協歌棄女性部長 ...	8
浜のお買い物 ひやま漁協江差店 .....	8

## 失敗を恐れず 自分の発想で試みる

長万部漁協指導漁業士の小形新一さんは、ホタテ養殖と定置網漁業を営んでいます。

「ホタテ養殖に携わって28年になりますが、単価がぐっと下がってしまったので、昔は水揚げの5割あった利益が、今では1~2割になってしまいました。3年貝を主流にやってきましたが、新貝と10円しか変わらない年もあるなど割が合わず、リスクが大きくなってきました。ずっと続けてきたので切るわけにもいかず、今が一番きついです」と小形さんは話します。

### 初めての自動耳吊り機

小形さんは、日本で初めて開発されたホタテ自動耳吊り機第1号機の最初の実験者です。

「当時、パートだけで20~25人ほど雇っていたので、省力化したいと機械導入を試みました。結構な投資だったので軌道に乗せるまでかなり苦労しました」

現在、その時の機械は倉庫に眠っています。

「今でこそ性能も良く、一枚開けの機械も開発されるようになりましたが、初期の機械は故障も多く、2枚開けだったのもう使っていません。今は穴開け機と春休み中の学生アルバイトで賄っています」

小形さんは長万部漁協ホタテ研究会の会長をしています。

「最近、春の段階での稚貝の斃死が増えてきました。海環境は確実に変わっています。温暖化の影響も出てきていると思います。前は大きくするためにプランクトンの多い水面の方に浮かせていましたが、今は下に沈めたり、陸の浅い部分の桁は使わずに沖に下げたりしています。今後さらに影響が強まれば、それに合わせた養殖のサイクルや技術を考えなければなりません」

今できることは、常に注意深く海の状況を見て、一年一年を判断できるような知恵を持つことだと小形さんは言います。

「定置網をやっていると、どういう水温帯でどういう魚が乗るのか、経験で分かってくるので、魚の来遊を見て海環境を把握するのに役立っています」

### 若いうちから経営を

小形さんにはサラリーマンの経験があります。高校卒業後、札幌で就職していましたが、ロサンゼルスに転勤することになり、悩んだ末に会社を辞めて実家に戻り、後継者になりました。

「22歳で親から経営を任せてもらって、給料をもらう立場から払う立



長万部漁協指導漁業士  
小形 新一さん

場になりました。緩くないときは自分の給料を削ってでも払わなければならないし、経営の厳しさや中身が分かります。経営は若いうちからしたほうがいい。30代までに自分の考えと基盤を作っておかないと40代でなりたちません。60代で退職金があるわけでもないし、老後を見据えた経営を早くからするべきです」

若い人には、親から伝わってきたものを基礎にして、いろんな勉強をしてほしい。失敗を恐れず、間違ってもいいから自分の発想でいろいろ試みて成長して、この浜を担ってほしいと小形さん。

### 人の見本となれるよう

小形さんは平成7年度に青年漁業士の認定を受け、平成13年度に指導漁業士となりました。

「前任の指導漁業士が今の組合長なので、後任を引き継ぐには役不足とも思ったのですが、ちょうど組合の理事をやめた後だったので、自分自身が成長するためにも自分に何か責任を持たせなくてはと引き受けることにしました。人の見本となるような漁業者になれるよう努力しているところです」

# 平成16年度 通常総会開催

当会社の平成16年度通常総会が6月18日、札幌の第二水産ビルで開催されました。

今井 鐵男ウトロ漁協組合長を議長に、10項目の提出議案（1.平成15年度事業報告及び収支決算について、2.平成16年度事業計画及び収支予算の設定について、3.放流効果実証事業業務実施計画について、4.栽培漁業振興基金から栽培漁業推進基金に10億円を移管することについて、5.平成16年度会費の賦課について、6.役員報酬について、7.借入金の最高限度について、8.役員退任慰労金について、9.役員選任に関する規程の改正について、10.役員選任について）が各々審議され、全議案とも満場一致で

原案通り承認、可決されました。

【役員改選結果】（敬称略）

▷会長理事 = 杉森隆（再）▷副会長理事 = 林和明、安藤善則、佐々木隆人（以上再）▷専務理事 = 和泉博邦（再）▷常務理事 = 村上一夫（新）▷理事 = 北島哲夫、渡邊静次、濱隆司、市山亮悦、金澤利之、坂下登、蝦名俊弘、長沼憲彦、小田桐四郎（以上再）  
桜庭武弘、滝本長次郎、鎌田光夫、茅野優、堀次郎（以上新）  
▷監事 = 橋本勉、湊美喜夫（以上再）



## 杉森隆会長あいさつ



平成16年度通常総会の開催にあたり、ひとこと、ご挨拶を申し上げます。

皆様方には、昨日の全道漁協組合長会議を初めとして、系統及び関係団体の総会に引き続きご出席をいただき、誠にありが

とうございます。

本日、ご出席の皆様方には、常日頃から、当会社の事業の推進にあたり、特段のご理解とご協力を頂いておりますことに対して、この場をお借りして、あらためて深く感謝申し上げます次第であります。

昨今の栽培漁業を取り巻く環境は極めて厳しいものがありますが、全道の漁協と沿海市町村を会員とします公社の果たすべき役割とその責務をしっかりと受けとめて、栽培漁業の推進に向けて、一層努力していかなければならないと、役職員決意を新たにしているところであります。

本日の総会でご審議いただきます内容については、後ほど説明をいたさめますが、私から、平成15年度の結果と16年度の計画の概要について申し上げます。

まず、平成15年度の結果であります。ヒラメなどの種苗生産事業や指導事業等が概ね順調に終了するとともに、調査設計事業の受注額が当初計画の6億9千万円を大幅に上回る8億1千万円となった

ことなどから、当初予算の3千2百万円の赤字から6百万円の黒字決算となりました。これも、浜の皆さまのご支援の賜物と感謝しているところであります。

次に、平成16年度の事業計画と収支予算であります。まず、現在までの事業の実施状況について申し上げますと、ニシンの種苗生産事業については、計画の160万尾を上回る210万尾を生産し、すでに、各地において放流を終了しております。また、ヒラメについては、変態、着底した稚魚の飼育を行っている段階にあり、クロソイについては、各地に稚魚の配付を開始しております。

ウニ、アワビについても、計画に沿って種苗の配付を進めております。

次に、収支予算であります。一般会計のほか、アワビ、ウニ会計も赤字経営となっており、この赤字を調査設計事業会計でカバーしていく考えで進めておりますが、残念ながら公社全体で約1千6百万円の赤字予算となっております。

今後、調査設計事業の受注の拡大に努めるとともに、経費の節減を一層図っていく所存でありますので、会員皆様の一層のご理解とご協力を賜りたいと考えております。

本日の議案は、「平成15年度事業報告及び収支決算」など10件であります。十分にご審議を賜りますことをお願い申し上げますとともに、ご出席の皆様方のご健勝と大漁を祈念いたしまして、平成16年度の通常総会のご挨拶とさせていただきます。

# 事業 実施 計画

(社)北海道栽培漁業振興公社の平成16年度事業計画が通常総会で承認されましたので、その内容を紙面上で紹介します。

## 1 栽培漁業指導事業

### (1) 研修指導事業

栽培漁業の推進を図るために、栽培漁業に係る知識、技術の普及と指導を目的とした研修会を、水産技術普及指導所の支援を得て、道内各地において開催するとともに、会員等が行う研修事業の実施に協力します。

また、本道における栽培漁業に関する今日の問題について、全道の関係者を対象に「育てる漁業研究会」を札幌市において開催します。



研修事業計画

研修課題	実施時期	開催地
「漁業生産技術研修会」		
磯焼けについて	平成16年9月	積丹町
ナマコの生態と増殖	平成16年10月下旬	虻田町
「育てる漁業研究会」	平成17年1月21日	札幌市

### (2) 広報普及事業

#### ア 機関紙「育てる漁業」の発行

栽培漁業に係る事業、試験研究、施設及び資料等の紹介、解説等を掲載した機関紙「育てる漁業」を、毎月発行、配布します。



#### イ 北海道沿岸漁場海況速報事業

栽培漁業推進上の基礎資料とするため、道内の沿岸漁場50か所において毎日観測した水温を、旬ごとにまとめるとともに、過去10年の同旬平均水温を併記して速報するほか、年間の水温、気象をまとめて刊行、配布します。

この全道を網羅した日々の観測データは、道内唯一のもので、広く有効に活用されているため、観測従事者の協力を得て今後も継続します。

#### ウ 種苗生産事業報告書の発行

公社が行っているヒラメ、ニシン、クロソイ、ウニ、アワビの種苗生産について、平成15年度事業の経過及び実績をとりまとめて発行、情報交換文献として関係機関に配布します。

### (3) 漁業技術研究支援事業

漁村青年グループ等が行う、栽培漁業に関する研究実践活動のうち、その実効が期待されるものに対し、所要経費の一部（1件50万円以内、実施期間3か年以内）を助成するとともに必要に応じ技術的な協力も行います。

また、地域の漁業振興に係わる取り組みのより一

層の活性化を図るため、栽培漁業の推進に関連する新しい取り組みに対しても支援します。

#### 漁業技術研究支援事業計画

研究課題	事業実施団体名
ノリ養殖試験事業	利尻富士町ノリ養殖部会
マツカワブランド化推進事業	えりも以西栽培漁業振興推進協議会
ハタハタ採卵・中間育成・放流試験事業	留萌中部ハタハタ研究会
カレイ種苗生産試験	紋別漁業協同組合青年部
人工リーフを利用した ウニ人工種苗放流試験事業	苫小牧漁業協同組合青年部
シラウオ漁獲調査	大樹漁業協同組合青年部
資源管理型ナマコ潜水器 漁業操業モデル構築試験	ひやま漁業協同組合江差潜水部会
合計	7団体



## 2 日本海 ニシン種苗生産委託事業

道は、日本海地域の漁業振興対策の一環としてニシン資源増大に力を入れることとし、平成8年度から13年度までの6か年を第一期、平成14年度から19年度までの6か年を第二期として事業を推進してきました。

本年度は、厚田村の沿岸で漁獲された親魚から採卵し、45mm種苗を160万尾生産し、後志、石狩、留萌、宗谷管内等の各地先から放流する計画です。

公社は、道から委託を受け、羽幌センターで45mm種苗を160万尾生産し、うち150万尾を各地先に配布し、残り10万尾を55mmと70mmまでに中間育成します。

## 3 栽培漁業推進事業 (ヒラメ種苗生産事業)

餌料培養、採卵、ふ化仔魚飼育、分槽選別の過程を経て、ヒラメ30mm種苗296万尾を生産し、そのうち37万7千尾を3か所の民間中間育成施設へ配布します。

残りの258万3千尾は羽幌、瀬棚両センターにおいて放流サイズの80mmまで中間育成し、3か所の民間施設と合わせて220万尾を放流します。

#### ヒラメ種苗生産計画

##### 北海道栽培漁業羽幌センター

(110万尾放流体制)

	[30mm種苗]	[中間育成]	[放流80mm]
羽幌センター	147万尾	133万尾	100万尾
民間施設		14万尾	10万尾
(羽幌)		14万尾	10万尾

##### 北海道栽培漁業瀬棚センター

(110万尾放流体制)

	[30mm種苗]	[中間育成]	[放流80mm]
瀬棚センター	149万尾	125.3万尾	93万尾
民間施設		23.7万尾	17万尾
(寿都)		16万尾	12万尾
(知内)		7.7万尾	5万尾



## 4 栽培漁業振興事業 (種苗生産等支援助成事業)

地域の協議会等が実施する種苗生産、中間育成、放流等の事業に対して、振興基金運用益から助成を行います。



## 5 アワビ種苗生産事業

### (1) 種苗の育成管理と供給

本年度は、現在育成中の15年産種苗と16年に採苗する種苗の育成管理に当たり、15年産25mm種苗12万個と30mm種苗96万4,500個の合計108万4,500個及び16年産20mm種苗37万8千個の総計146万2,500個を供給します。

### (2) アワビ種苗供給体制 効率化事業

道がすすめるアワビ栽培漁業構造改革推進事業の一環として、アワビ種苗生産事業を効率化してコストダウンを図るため、深層水を使って培養した珪藻を用いた飼育を試験事業として実施します。

## 栽培漁業振興事業実施計画

(単位：千円)

事業主体	対象魚	助成対	助成内	
寿都町漁業協同組合	クロソイ	2,936	1,463	
島牧漁業協同組合	マゾイ	4,106	2,053	
	クロソイ			
ひやま漁業協同組合	クロソイ	4,915	2,457	
津軽海峡地域水産人工種苗育成供給連絡協議会	クロソイ	5,021	2,510	
渡島東部海域栽培漁業協議会	クロソイ	1,540	770	
噴火湾渡島海域漁業振興対策協議会	クロソイ	7,380	3,690	
噴火湾胆振海区漁業振興推進協議会	マツカワ	4,400	2,933	
静内漁業協同組合	マツカワ	6,356	3,541	
	ハタハタ			
	クロソイ			
三石町栽培漁業推進協議会	ハタハタ	1,486	740	
	クロソイ			
	マガレイ			
	マツカワ			
浦河漁業協同組合	エゾボラ	600	400	
様似町水産振興協議会	マツカワ	2,050	1,095	
	ハタハタ			
	エゾボラ			
えりも町栽培漁業振興協議会	マツカワ	5,976	3,207	
	ハタハタ			
	クロソイ			
	マガレイ			
	エゾボラ	1,530	1,000	
十勝管内栽培漁業推進協議会	マツカワ			
大津漁業協同組合	クロソイ	1,647	823	
釧路市漁業協同組合	マツカワ	3,386	1,965	
	クロソイ			
昆布森漁業協同組合	ニシン	778	389	
厚岸漁業協同組合	ニシン	1,000	500	
浜中漁業協同組合	ニシン	422	211	
根室市	ハナサキガニ	3,854	1,927	
根室海域ハナサキガニ資源維持増大対策連絡協議会	ハナサキガニ	487	222	
根室管内ニシン種苗生産運営委員会	ニシン	33,461	8,000	
根室管内栽培漁業推進協議会	マツカワ	4,222	2,814	
羅臼漁業協同組合	マガレイ	1,331	665	
斜里・網走・常呂海域マツカワ栽培漁業推進協議会	マツカワ	450	300	
宗谷漁業協同組合	マナマコ	2,258	1,129	
	ホッカイベイ			
増毛町	ニシン	1,495	747	
	クロソイ			
	マナマコ			
合計	26団体	10種	103,087	45,551

アワビ種苗本年度供給計画

(単位：個)

殻長区分	20mm	25mm	30mm	計
15年産		120,000	964,500	1,084,500
16年産	378,000			378,000
計	378,000	120,000	964,500	1,462,500



## 6 ウニ種苗生産事業

エゾバフンウニは、現在育成中の平成15年産種苗及び平成16年に採苗する種苗の育成管理に当たり、15年産5mm種苗340万個と10mm種苗30万個の合計370万個、及び16年産5mm種苗170万個の総計540万個を供給します。

また、キタムラサキウニ種苗については15年産5mm種苗106万4千個を供給するとともに、平成17年に供給する106万4千個の採苗を行い育成管理します。

エゾバフンウニ付着期の幼生は300万個を供給します。

またアワビモ5,200枚を供給します。

エゾバフンウニ種苗本年度供給計画

(単位:千個)

殻径区分	5mm	10mm	計
15年産	3,400	300	3,700
16年産	1,700	0	1,700
計	5,100	300	5,400



## 7 調査設計事業

### 調査設計事業の実施方針

次の基本的な考え方を、公社の調査設計事業の実施方針とします。

- 1 公社は、全道の漁業協同組合と沿海市町村を会員としている公益法人団体であることから、その基本的なスタンスは、漁業者の視点に立って考えます。
- 2 受託事業については、精度の高い調査と公正な判断による高品質な報告書を作成するとともに、漁業環境の保全と漁業影響を防止するための考え方を提言します。
- 3 公社は、事業実施者と漁業者との間にあって、問題の解決に向けての調整と提言を行います。

### 平成16年度調査設計事業受託見込み

平成16年度の調査設計事業は、事業規模見込みを受託件数65件、受託金額690,000千円とする。

### 調査設計の主要事業について

調査設計部においては、調査設計事業を担当する職員の資質と技術の向上を図るとともに調査設計事業量の確保と拡大に向けて、次の事業を実施する。

- 1 職員の資格取得と研修制度の推進
- 2 調査設計事業の確保と拡大を図るための事業活動



## 8 クロソイ種苗生産事業

平成9年度から11年度までの3か年計画で行われた道の「クロソイ種苗生産委託事業」が終了しましたので、平成12年度から会員の要望により30mm種苗を生産し、要望先へ配布しています。本年度は、30mm種苗56万6千尾を生産し、要望先へ配布します。

クロソイ種苗の要望先一覧表

要 望 先	尾数
増 毛 町	10,000
寿 都 町 漁 業 協 同 組 合	92,000
島 牧 漁 業 協 同 組 合	20,000
ひやま漁業協同組合瀬棚支所	100,000
津軽海峡地域水産人工種苗育成供給連絡協議会	70,000
噴火湾渡島海域漁業振興連絡協議会	150,000
三石町栽培漁業推進協議会	5,000
大 津 漁 業 協 同 組 合	20,000
釧 路 市 漁 業 協 同 組 合	15,000
北 海 道 立 函 館 水 産 試 験 場	8,000
北海道立栽培漁業総合センター	5,000
北 海 道 立 漁 業 研 修 所	1,000
室 蘭 漁 業 協 同 組 合	70,000
合 計	566,000

# アファ母ちゃん

寿都町漁協歌棄女性部長  
佐藤 和子さん



## 年に1度の交流を楽しむ

歌棄支所の女性部員はもう20人を切ってしまいました。高齢化も進み、一番若い人でも50代です。正直、皆さまに紹介できるような活動は何もしてないのが現状です。

数年前から美谷漁港で行われているかき祭りに女性部で出店し、その売り上げや、春と秋の味噌・醤油の購入取りまとめ、カタログ販売の手数料などを活動資金に充てています。

年に1回1泊で研修旅行を行っています。最近では総会も一緒に兼ねるようにしました。総会の後、ゲームをしたりカラオケをしたり、

年に1度の仕事を休んで皆が顔を合わせる機会を楽しんでいます。

組合への協力活動としては、月掛け貯金を行っています。班長さんが取りまとめをして、月に1度組合に持って行っています。

うちは、ホタテとカキの養殖のほか、ウニ獲り、底建、小定置などいろいろやっているのので1年中浜の仕事に追われ、また、町営温泉の隣で毎週日曜日のみ営業の漁業者の直売店にも参画しているので、私自身は年中無休状態です。でも、消費者の方と直接話せる機会ですし、他地区の漁家の人と毎

週会って情報交換もでき、私にとってはストレス解消の場になっています。同じ町内でも、忙しくて普段はほとんど話せません。

カキを始めたことによって、忙しさは倍になりましたが、「寿がき」の名も徐々に知られるようになり、本所に組合直売店もでき、カキの売れ行きは順調で、始めて良かったと思っています。

息子が後継者で残ってくれているので、あとは、お嫁さんが来てくれると私も肩の荷を一つ下ろすことができるのですが。

LLサイズ (7~7.5cm) 1ヶ700円  
Lサイズ (6.5~7cm) 1ヶ500円  
送料 10ヶまで  
道内 700円  
本州 1000円

（活ホタテ）  
14/50円

ひやま漁協自信の産品は  
釣りたての子紅と女紅  
はえ縄で釣られた  
新鮮なスケトラウ  
タラの卵を  
使った  
ブランド品。

500g 3000円

こちらに入りした  
店內に入りした  
オーシャン以来  
江差店を担当  
している本庄  
さんか親の  
応対してくれた。  
いらっいませ

### 浜のお買い物

ひやま漁協直売店(江差店)  
TEL 01396-2-3300  
水曜定休日  
ホームページ  
<http://www.jf-net.ne.jp/hkiyamagyokyo/>

国道228号線から  
江差町に入ったら  
かき店と隣接する  
を目的に

今月の自腹で  
お買い物は  
これにしました。  
するめの塩辛  
250g入り 500円

買って正解!  
まじあいたあや

イカもひやまのメイン産品  
イカ製品がよりどりみどりで  
そこで

5?9月は  
ツブが旬。  
観光客だけじゃなく  
地元一般客も  
気軽に立ち寄り  
買い物をしてく

1kg 18~22ヶで  
700円はお買い得

う二は貝取網の  
扱う二も人気が  
よく出ます。観光  
の方には早のりも  
喜ばれています

250

超人気で入荷分は  
おという向に  
取り切れる

6?8月は  
運が良いのは  
奥尻島の  
塩水うにぱら  
に出会える。

中に氷ひりネットが  
入っていて便利らしい。

ひやま漁協には町が  
あり、元は8つの組合  
だった。江差店では  
各支所の  
製品が  
手に入る。

満洲  
久遠  
貝取網  
産品  
の  
品質  
向上